

資料 2

厚木市学校運営協議会会長・副会長研修

学校運営協議会これまでの取り組み ～子どもたちのためにできることを～

本日の流れ

- ・ 年間のスケジュール紹介
- ・ 我々が考える学校運営協議会の役割
- ・ 学校運営協議会委員として大事にしていること
- ・ その結果（成果や課題）
- ・ まとめ

R8(2026)年度 厚木市立依知南小学校 学校経営グランドデザイン

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領

えがおでちやれんじ
みらいを創る みなみっ子

かながわ
教育ビジョン
厚木市
教育大綱

〈学校教育目標〉

・自ら学びよく考える子・心豊かでやさしい子・健康でたくましい子の育成

〈めざす児童像〉

- ・失敗を恐れず、前向きにチャレンジする子
- ・自ら考え、思いを伝え合って行動する子
- ・「命」と「心」を大切にできる心育をもった子
- ・人にやさしく、寛容で、思いやりのある子
- ・気持ちのよいあいさつができる子
- ・健康に関心をもち、進んで運動や体力づくりに取り組む元気な子

〈学校経営の方針〉

○多様性を認め合い、誰一人取り残さない個別最適な学びの実現を図るとともに、地域との協働による教育活動を通して、持続可能な社会づくりに貢献する。

〈めざす教職員像〉

- ・児童一人一人のよさを認め、声に耳を傾け、共に成長する教職員
- ・ビジョンを持ち、主体的・創造的に行動する教職員
- ・同僚・保護者・地域とともに協働する教職員
- ・法令を遵守し、信頼される教職員

〈本年度の重点目標と具体的な取組〉

主体的に学び力の育成と
確かな学力の向上(知)

- 主体的に学び力の育成と確かな学力の向上
- 新たな教育課題に対応できる授業の実践
- 感性を磨き心を育てる学習活動
- 主体的な学びにつながる家庭学習の習慣化
- 児童の社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成

- ・一人一人の能力を最大限伸ばすために、指導方法の工夫改善を図る。
- ・ICT機器を活用し、課題の解決に役立てさせる。
- ・読書週間、芸術鑑賞教室、国際理解週間を実施する。
- ・学力UP！チャレンジ週間を実施する。
- ・キャリアパスポートを有効に活用する。
- ・地域の教育力の活用

多様な個性を認め合う
心の育成(徳)

- 多様性を認め合い、個性を生かした学年経営
- 共生社会の実現に向けたすべての児童ができるだけ同じ場で共に学び共に育つ
- 他に応じた支援の展開
- 自分の命の大切さを実感し他者の命も大切と理解する

- ・共に学ぶ中で、寛容さや相互理解、良好な人間関係を形成する力を養う。
- ・ユニバーサルデザインの視点を意識した、誰にとっても分かりやすい授業・安心できる環境を整える。
- ・教育相談コーナーを中心に、こころスマイル支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学習ボランティア等と連携し、支援体制の充実を図る。
- ・全学年で計画的に「命の授業」を行い、命の大切さについて考える。
- ・地域の教育力の活用

健やかな心身の育成と
安心・安全で地域に
開かれた学校(体・安・関)

- 体力づくりと健康教育の推進
- 安心・安全計画の確立及び交通安全を中心とした危機管理体制の維持推進
- 地域・他機関との協働・連携
- 望ましい食習慣・食育の推進
- 小・中連携、幼・保・小連携

- ・様々な体育的活動や外遊びを推奨する。
- ・ライフガードデー、避難訓練、下校指導、不審者対応訓練、交通安全教室等の計画・実施により、交通安全・防災・防犯の意識啓発と実践力の向上を図る。
- ・家庭・地域・学校の協働による活動(ふれあい水田、交通安全教室等)を行う。
- ・望ましい食生活への意識を育てるために、指導を工夫する。
- ・幼保小中間で丁寧な引継ぎを行い、指導に生かすよう連携の充実を図る。
- ・地域の教育力の活用

チーム依知南小

コミュニティ・スクール

〈家庭〉
心のエネルギー
基本的な生活習慣

PTA活動

〈外部団体〉
地域の方で、子ども達のために
多様な育成事業(ふれあい水田等)

みなみっ子応援隊(ボランティア)
・家庭科実習の補助・目遊び
・水泳指導、見守り、着衣泳指導等
・地域学校協働活動

学校運営協議会

学校運営の重点 4本柱

- (1) 主体的に学び力の育成と確かな学力の向上 <知>
- (2) 多様な個性を認め合う豊かな心の育成 <徳>
- (3) 健やかな心身の育成と、安心・安全で地域に開かれた学校<体・安・関>
- (4) 機能的で効果的な学校管理 <管>

校内研究 国語科テーマ
主体的に学び力の育成と確かな学力の向上
～児童の「言語化力」を高めるための指導法の工夫～

学校評価

- ・教職員による自己評価
- ・児童アンケート
- ・保護者アンケート

- ・学校評価会議(年間1回)
- ・学校運営協議会での熟議

公表
報告

次年度の
学校経営
に反映

PDCA
サイクル
で改善

3つのグループで話し合い

- 主体的に学ぶ力の育成と確かな学力の向上(**知 グループ**)
- 多様な個性を認め合う心の育成(**徳 グループ**)
- 健やかな心身の育成と安心・安全で地域に開かれた学校
(**体・安・開 グループ**)

に分かれて話し合いをする。**年間通してそのグループに所属。**

- 1 回目会議 今年度の年間予定などを確認。
グループ討議。（諸課題を話し、できることを探す）
今年度何ができるかまで話せれば最高
- 2 回目会議 進捗等を確認。引き続き諸課題を継続的に話す。
- 3 回目会議 今年度の取り組みと成果、次年度の学校運営について承認

我々が考える学校運営協議会の役割

学校での課題について、自分の立場で何ができるかを考えて、解決する。

事例を踏まえて紹介します。

事例 1

先生方の研修会にて（保健委員会編）

Q

依知南小は校舎建て替えのため、仮設校舎で授業をしています。

3階の教室には、避難器具（救助袋）が設置されているが、どう使うの？

A

写真：学校運営協議会委員である消防職員が、関係各機関と調整し実演し、使用方法を伝える。

また、災害発生時の対応等を研修時に伝える。

特に防火シャッターが閉鎖された際にどのように行動したらよいかなどを校舎で実際説明した。

先生に避難器具の使用方法や避難方法を伝えることで、今後、建て替えが順次行われる学校に赴任した先生が中心となり、共有してもらうことが期待できる。

事例 2

子どもたちの体力測定の結果を受けて

Q

子供たちの体力測定の結果を受けて、県内でも最低レベルであり、何とか向上を図りたい。

例えば、シャトルランやソフトボール投げは苦手傾向にある。

また、ソフトボール投げの指導をするにも児童個々に指導することが難しい。

A

ソフトボール投げの授業や朝の時間を活用し、学校運営協議会の委員で、地域のソフトボールを指導していた方が、仲間を募り、こどもたちに指導した。

走ることが苦手な子供たちと、市主催のちびっこマラソンに出ることを目標に、朝の時間を活用し2か月前からボランティア（P T A、保護者、地域の応援者）で小学校の外周をランニングした。

→結果：そこに参加した子供は、中学で陸上部に入り、その後、県内でも選抜された。

事例3

通学路で児童の死亡事故が発生した

Q

通学路で児童が車にはねられ、死亡した事案が発生した。

学校側は今後の対応について、通学路の安全点検や対応に苦慮していた。→当時のP T A会長が尽力し様々な対応をした。

その後、学校では、事故を風化させない取り組みを行う。

そこで学校運営協議会で何ができるかを、先生と話し合った。

その結果は。

- 命の授業を行う。

→先生の要望でA E Dを活用した心肺蘇生法の授業を6年生に実施する。

○当時は現在とは異なり授業に編成されておらず、PTAの保護者に救命講習に必要な資格を取っていただき実現した。

→交通安全指導において、トラックの死角について児童に教えたい。

○学校運営協議会委員の知り合いである地元トラック会社をお願いしたところ、快く協力して頂き、その取り組みは現在も継続できている。

この地域に根差す会社は、通学路の見守り隊に対して、見守り旗を寄贈してくれた。約130本

よくある諸課題（工夫していること） について

●先生との距離感が縮じまらない

→会議等に出席できるすべての先生を呼んだ。

ざっくばらんな意見を聞いた。

その環境を、学校運営協議会委員が作る。

●何をしたいかわからない。

→先生からのざっくばらんな問題点や苦慮していること、

取り組みたいができないことなどを聞き出す。

そこで、委員ができることを探して先生と共に行う。場合によっては地域を巻き込む。

●工夫していること

→難しことはできないので、それぞれの立場でできることを話し合い、「これならできる」ということを行う。そこに正解はない。

成果について

成果は後で付いてくる。決して成果のために行動はしていない。

約10年も同じようなことを繰り返し取り組むと、学校・協議会・地域で、自然に協力(協働)体制が出来てくるもの。

子どもたちのためにできることを

継続が力

まとめ

委員が大切にしていること

すべての活動は、子どもたちのために活動をしているとの思い

できることを、1つずつ

ご清聴ありがとうございました。